

どの処理時期でも使用できる 新規いもち病防除薬剤「ブーン」

ジクロベンチアゾクス（商品名：ブーン）は、全農とクミアイ化学工業（株）が共同開発した新しい水稻用殺菌剤です。本剤は、育苗箱処理することにより、水稻の主要病害であるいもち病に安定した高い防除効果を示します。本剤を含有する水稻育苗箱処理剤は、令和2年12月23日に上市されました。

「ブーン」の特徴

植物の病害抵抗性を活性化

「ブーン」は、植物がもともと病気に対して備えている免疫を増強させることで、植物を病気にかかりにくくします（抵抗性誘導）。「ブーン」などの抵抗性誘導剤は、耐性菌の発達リスクが低く、安心して使用できます。

幅広い処理時期に適応

「ブーン」は、水稻に対して安全性が高く、効果が長く続きます。播種前から移植当日までのどの処理時期でも使えるため、現場のさまざまなニーズに対応できます。

いもち病に安定した高い効果 +その他病害にも効果あり

「ブーン」は、処理時期に

かかわらず、いもち病に対して安定した高い効果を示します（図1）。また、いもち病以外にも、白葉枯病やごま葉枯病などの幅広い病害に効果を示すことが確かめられています（表1）。

製品ラインナップ

ブーン剤として、2021年1月現在、「ブーンパディート箱粒剤」「ブーンゼクテラ箱粒剤」「ブーンレパード箱粒剤」の3製品があります（表2）。令和2農業年度にクミアイ化学工業（株）が全国各地で実施した展示圃試験では、いもち病に対して良好な結果が得られています。また、実用上問題となる薬害発生の事例はありませんでした。



ブーンゼクテラ箱粒剤

いもち病は、水稻の栽培期間を通して発生し、年によってはしばしば大きな被害を引き起こします。ブーン剤などの省力的に使用できる水稻育苗箱処理剤を活用し、いもち病をしっかりと防除しましょう。

- 問い合わせ先
クミアイ化学工業（株） ☎03-3822-5036

【全農 営農・技術センター 農業研究室】

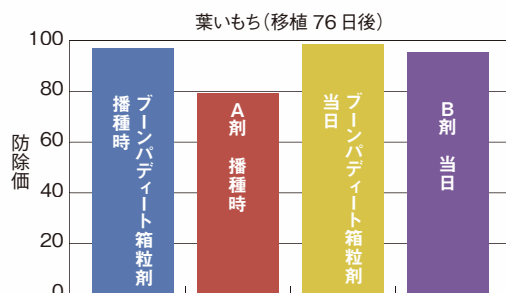


図1 「ブーンパディート箱粒剤」の新農薬実用化試験結果（いもち病）
2016年 青森県産業技術センター農林総合研究所
品種：ゆめあかり 播種日：4月19日
移植日：5月23日 発生程度：中（接種）

表1 各種病害に対する効果
（クミアイ化学工業（株）ブーン剤技術資料より一部抜粋）

作物	病害	効果
稲	いもち病	+++
	紋枯病	-
	白葉枯病	++
	穂枯れ（ごま葉枯病菌）	++
	もみ枯細菌病	+
	内穎褐変病	+
育苗期	苗腐敗症（もみ枯細菌病菌）	+
	苗立枯細菌病	+
	苗立枯病	-

+++：効果高い ++：効果あり
+：低い効果あり -：効果不十分

表2 ブーン剤の製品ラインナップ（2021年1月現在）

薬剤名	有効成分・含量（上段：殺菌成分、下段：殺虫成分）	使用方法*	使用時期*	主な対象病害虫
ブーンパディート箱粒剤	ジクロベンチアゾクス2.0% シアントラニプロロール0.75%	側条施用	移植時	いもち病、初期害虫、チョウ目害虫
		土中施用	播種時（直播）	
		育苗箱施用	床土または覆土混和、 播種時（覆土前）～ 移植当日	
ブーンゼクテラ箱粒剤	ジクロベンチアゾクス2.0% クロラントラニプロロール0.75%、トリフルメゾピリム0.75%	側条施用	移植時	いもち病、初期害虫、チョウ目害虫、ウンカ類
育苗箱施用	播種時（覆土前）～ 移植当日			
ブーンレパード箱粒剤	ジクロベンチアゾクス2.0%、ペンフルフェン2.0% テトラニプロロール1.5%	側条施用	移植時	いもち病、紋枯病、初期害虫、チョウ目害虫
		育苗箱施用	播種時（覆土前）～ 移植当日	

*：使用方法および使用時期は適用病害虫により異なる場合もあるため、使用にあたってはラベルを確認してください